豊岡市立小中学校適正規模・適正配置計画

城崎・港地域　小中学校再編に関する地区説明会

～ 施設一体型小中一貫校の検討について ～

2026年10月28日
豊岡市教育委員会　教育施設課

豊岡市
TOYOOKA

本日の内容

豊岡市 TOYOOKA

1

これまでの経緯と地区要望について

適正配置計画と、地域からの要望への対応方針

2

義務教育学校・小中一貫教育について

制度の内容と、施設一体型による効果

3

城崎・港地域の今後の見通し

児童・生徒数の推移と、再編時期の目安

豊岡市立小中学校 適正規模・適正配置計画

豊岡市 TOYOOKA

児童・生徒数の減少を踏まえ、学校の適正な規模・配置を進めるための市の計画です

前期計画	後期計画
2022年度 ～ 2026年度	2027年度 ～ 2031年度

2026年3月、直近の少子化の状況等を踏まえ、後期計画の時点修正を行いました

今回の見直しのポイント

- 再編の対象としている学校（枠組み）は変更しません
- 主に「再編の時期」を見直し、後期計画のスケジュールをより明確にしました
- 適切な時期に、関係地域との調整・協議を進めていきます

当初計画：港・城崎地域の学校再編

豊岡市 TOYOOKA

これまでの計画では、小学校・中学校をそれぞれ別々の時期に再編する予定でした

対象校	当初の再編目安	考え方
港小学校 × 城崎小学校	2031～2035年度	小・中の進学が分散進学にならないよう配慮
港中学校 × 城崎中学校	2028年度	小学校の再編に先行して、中学校を再編

しかし、施設一体型小中一貫校への再編を求める地域からのご要望をいただいています

→ 次のスライドで詳しくご説明します

地域からの提言・要望

豊岡市 TOYOOKA

2025年5月

まちづくりシンポジウムにて、城崎・港地区の小中4校を同時に、小中一貫校（義務教育学校）に再編する旨のご提言をいただきました

2026年3月

区長会、コミュニティ、PTAの連名で小中学校統合に関する要望書をいただきました

要望書の趣旨

小学校・中学校をばらばらに再編するのではなく、4校を一体的にとらえ、
小中一貫教育の効果も生かした学校づくりを進めてほしい、というものです。

市の対応方針

豊岡市 TOYOOKA

いただいた提言・要望を受け、市は次の方針で検討を進めます

小・中学校を同時期に再編

港小・城崎小・港中・城崎中の再編時期をそろえます

小中一貫校も視野に検討

施設一体型小中一貫校（義務教育学校等）を選択肢として検討します

※ 学校の種別（義務教育学校とするか、施設一体型小中一貫校とするか）や、施設の在り方は、今後、地域の皆さまのご意見を伺いながら検討していきます。

施設整備の考え方

豊岡市 TOYOOKA

新しい校舎は建築せず、既存の学校施設を改修して整備します

当初の適正規模・適正配置計画

城崎小 ＋ 港小 → 城崎小

城崎中 ＋ 港中 → 城崎中

小学校は城崎小学校に、中学校は城崎中学校へ統合

既存校舎の改修で対応



城崎小　城崎中　港小　港中

どの施設を利用するか
あらためて検討します

※ どの学校の施設を改修のベースとするかは、現時点で決まっていません。
城崎・港地域の各学校の敷地面積や校舎の建築年次、通学路の安全性などをもとに対象校を選定します。

小中一貫教育とは

豊岡市 TOYOOKA

平成27年(2015年)6月、**学校教育法等の改正により制度化**されました

小中一貫教育とは？

小学校と中学校が目指す子ども像を共有し、9年間を通した教育課程を編成して、
系統性・連続性のある教育を目指す教育のかたちです。

制度化の背景

- 「中1ギャップ」(進学後の環境変化への不適応)への対応
- 児童・生徒の発達の早期化
- 学習指導要領の改訂に伴う教育の質・量の充実
- 児童・生徒を取り巻く環境や少子化など社会環境の変化

平成26年度の文部科学省調査では、公立学校での小中一貫教育の取組件数は全国で1,130件でした。

小中一貫教育を進める3つの類型

豊岡市 TOYOOKA

① 義務教育学校

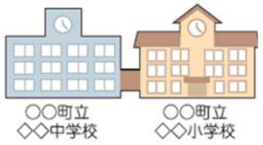
新たな学校種。修業年限9年
（前期6年・後期3年）。
校長1人、教職員組織は1つ

選択肢の一つとして検討

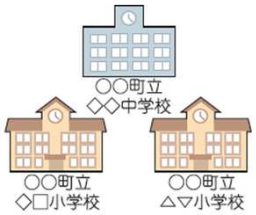
② 併設型 小学校・中学校

小・中学校が同一設置者。
修業年限は小・中学校と同じ。
校長は各校に1人

施設一体型



施設分離型



③ 連携型 小学校・中学校

小・中学校が複数の設置者。
修業年限は小・中学校と同じ。
校長は各校に1人

豊岡市ではすべての学校で小中一貫教育を実施しています

施設の形態による違い

豊岡市 TOYOOKA

	施設分離型 （小中連携）	施設一体型 小・中学校	義務教育学校 （施設一体型）
修業年限	小学校6年、中学校3年	小学校6年、中学校3年	9年（前期6年・後期3年）
組織・運営	それぞれの学校に校長・ 教職員組織	それぞれの学校に校長・ 教職員組織	一人の校長、 一つの教職員組織
乗り入れ授業	△ 移動に課題	○ 調整に課題	◎ 実施しやすい

より効果的な教育、特色のある教育の行いやすさ

施設分離型 ＜ **施設一体型小・中学校** ＜ **義務教育学校**

施設一体型小中一貫校による効果

豊岡市 TOYOOKA

小中一貫教育の取組を、より効果的に進めることができます



9年間
一貫した育み

系統性・連続性のある
9年間の教育課程



中1ギャップ
の解消

小学校から中学校への
円滑な接続



上級生・下級生
の学び合い

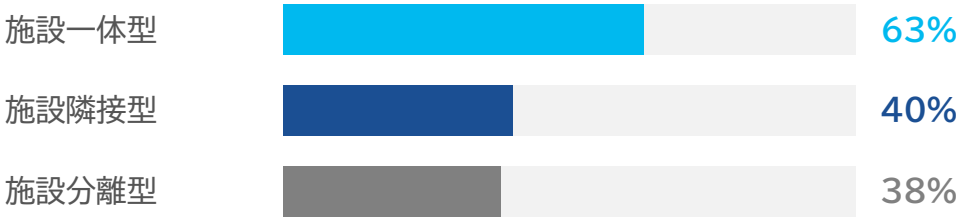
中学生は自覚と思いやり
小学生はあこがれと目標

小中一貫教育を導入した成果（施設体系別）

豊岡市 TOYOOKA

「大きな成果あり」「成果あり」の合計割合　※文部科学省「小中一貫教育等についての実態調査の結果」より

①全国学力・学習状況調査の結果が向上した



⑪中学校への進学に不安を覚える児童が減少



⑬いわゆる「中1ギャップ」が緩和された



㉒上級生が下級生の手本になろうとする意識



いずれの項目でも、施設一体型がもっとも高い成果を示しています

施設一体型（義務教育学校）の利点と課題

豊岡市 TOYOOKA

利点

- 一人の校長、一つの教職員組織 → 指揮命令系統が明確
- 教員同士で情報共有しやすく、継続的な指導ができる
- 4-3-2など柔軟な学年段階の区切りが可能
- 異学年交流を実施しやすい（運動会、部活動参加等）

課題 → 工夫による解消例

小学校卒業の達成感がない

⇒ ステージごとの目標設定・行事で解消

授業時間の違い

⇒ ノーチャイム制の導入で解消

リーダー経験の機会が減る

⇒ 4-3-2制なら機会が3回に増える工夫も可能

人間関係が9年間固定化しやすい

⇒ 縦割りの班編成の工夫で軽減

義務教育学校の先進事例

豊岡市 TOYOOKA

都道府県／学校名	区切り	教育課程の特例	特徴等
岩手県／大槌町大槌学園	4-3-2	ふるさと科	5年から音楽・英語・理科を先取り
東京都／品川区立品川学園	4-3-2	英語科・市民科	5・6年で全教科教科担任制
石川県／珠洲市立宝立小中学校	4-3-2	ふるさと珠洲科	2年から一部教科担任制
鳥取県／鳥取市立福部未来学園	3-3-4	みらい科	幼・小・中の10年間を通じた教育

出典：文部科学省「小中一貫した教育課程の編成・実施に関する事例集」より抜粋

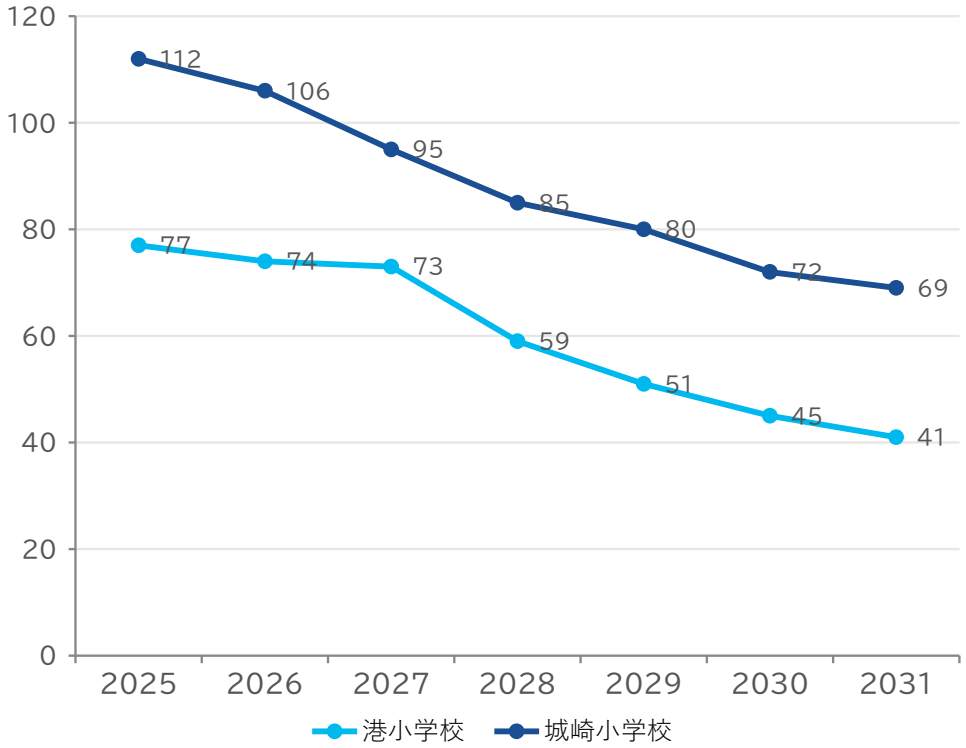
兵庫県内には、令和7年度で計10校の義務教育学校があります

豊岡市でも2025年度、竹野地域に義務教育学校「竹野学園」が開校しています

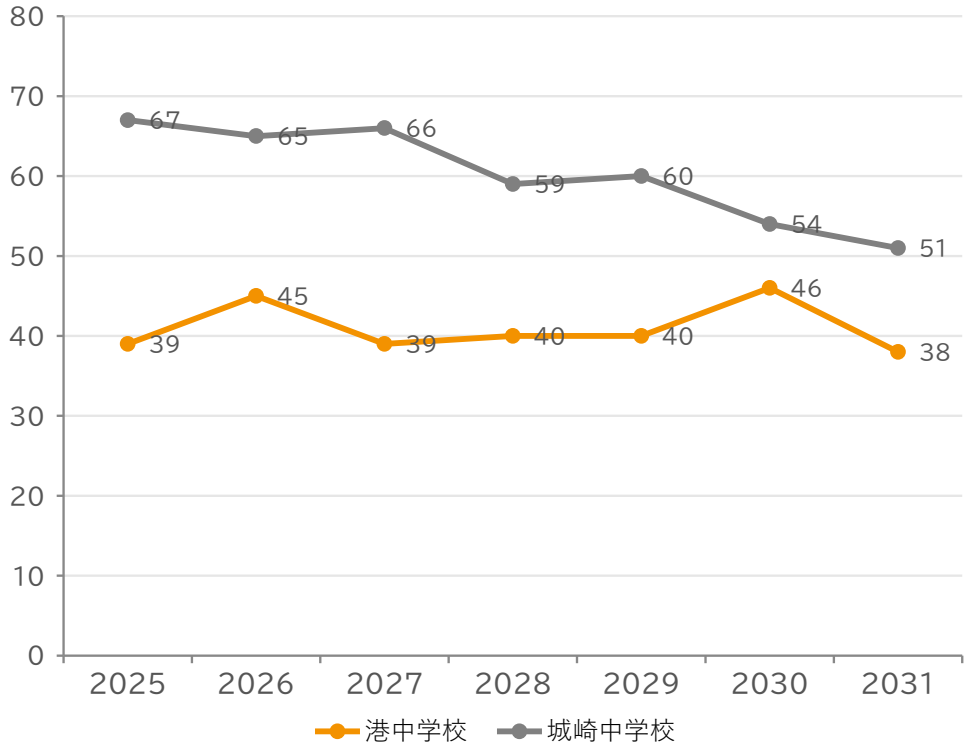
児童・生徒数の推移見込み（城崎・港地域）

豊岡市 TOYOOKA

小学校



中学校



児童・生徒数の推移見込み（城崎・港地域）学年別人数

豊岡市 TOYOOKA

城崎・港小中学校の児童生徒数の合計は、2026年度の**290人**から2031年度の**199人**へ、**約100人減少**の見込み

■ **港地区（港小・港中）**

年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小学生計	中学生計	合計
2026年度	10	11	13	14	19	7	14	18	13	74	45	119
2027年度	6	10	11	13	14	19	7	14	18	73	39	112
2028年度	5	6	10	11	13	14	19	7	14	59	40	99
2029年度	6	5	6	10	11	13	14	19	7	51	40	91
2030年度	7	6	5	6	10	11	13	14	19	45	46	91
2031年度	7	7	6	5	6	10	11	13	14	41	38	79

■ **城崎地域（城崎小・城崎中）**

年度	小1	小2	小3	小4	小5	小6	中1	中2	中3	小学生計	中学生計	合計
2026年度	14	15	17	19	18	23	18	25	22	106	65	171
2027年度	12	14	15	17	19	18	23	18	25	95	66	161
2028年度	8	12	14	15	17	19	18	23	18	85	59	144
2029年度	14	8	12	14	15	17	19	18	23	80	60	140
2030年度	9	14	8	12	14	15	17	19	18	72	54	126
2031年度	12	9	14	8	12	14	15	17	19	69	51	120

□ 複式学級の対象となるクラス

複式学級とは

豊岡市 TOYOOKA

児童数が少なくなると、**複式学級**が生じることがあります



※ 複式学級での授業の様子（左：2年生　右：3年生）

複式学級とは

2つの学年の児童を1つの学級にまとめて編成する学級です。
先生は2つの学年を行き来しながら指導します。

小学校の基準	2つの学年の合計	1年生を含む場合
国	16人以下	8人以下
兵庫県	14人以下	8人以下

小規模校の良さ（文部科学省の手引より）

- 一人ひとりの学習状況を把握しやすく、きめ細かな指導がしやすい
- 複式学級では、先生が学年を行き来する間、児童どうしで学び合う活動を充実できる

複式学級の発生見込み

豊岡市 TOYOOKA

港小学校で、**2029年度以降に複式学級が生じる見込み**です

港小学校

年度	2028	2029	2030	2031
児童数見込み	59人	51人	45人	41人
複式学級	—	1クラス	1クラス	2クラス

※ 複式学級：2つの学年を1つの学級に編成する学級
（兵庫県基準：2学年の合計14人以下、1年生を含む場合は8人以下）

城崎小学校も、2031年度に児童数69人まで
減少が見込まれています

児童数の減少が加速

港小学校・城崎小学校ともに、児童数の減少が
当初の想定より加速している状況にあります。
このため、再編時期についても改めて検討します。

国（文部科学省）の考え方

複式学級が生じる規模は、教育上の課題が極めて大きいとされ、学校統合等により適正規模に近づけることの適否を速やかに検討する必要があるとされています。

再編時期の目安

豊岡市 TOYOOKA

港小学校に複式学級が生じる見込みの2029～2031年度を目安とします

項目	令和9年 2027	令和10年 2028	令和11年 2029	令和12年 2030	令和13年 2031
港小学校 × 城崎小学校（再編）			2029～2031年度		
港中学校 × 城崎中学校（再編）			2029～2031年度		

※ 小学校・中学校を同じ時期に再編する方向で検討します（小中一貫校も視野に入れた検討）

この時期は現時点での「目安」です。今後の児童・生徒数の推移や、地域との協議状況によって、変わる可能性があります。

今後の進め方

豊岡市 TOYOOKA

学校種別や施設整備の内容などは、地域の皆さまのご意見を伺いながら検討していきます



地域との意見交換

説明会や意見交換の場を
重ねていきます



学校種別・整備方針の検討

義務教育学校とするか等、
方向性を検討します



改修対象校舎の検討

既存校舎のうち、どちらを
活用するか検討します



実施設計・整備

方針決定後、具体的な
設計・改修を進めます

いただいたご意見は、今後の検討にしっかりと反映してまいります

アンケートのお願い

豊岡市 TOYOOKA

- アンケートにご協力をお願いします。
- こちらの**二次元バーコード**を読み取ることで
  スマートフォンなどから回答することができます。
- いただいたご意見は、今後、協議などの際に参考資料とさせていただきます。
- 回答した方が分からないように十分配慮します。
- **１１月６日（金）**までにご回答ください。